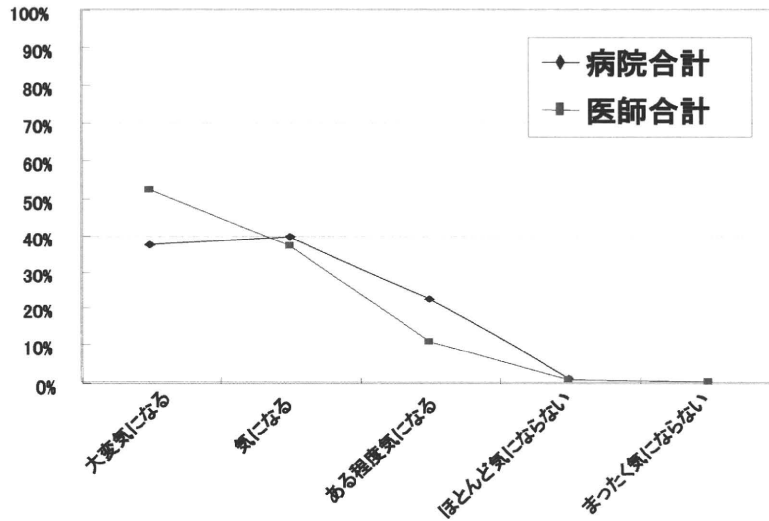


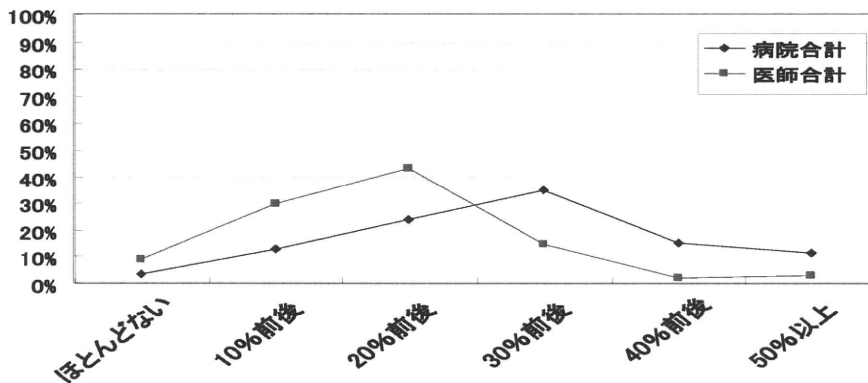
# 訴訟のリスク



## 4) 医師業務の代替性

医師業務の代替性については、医師調査では 20%前後に最頻値があり、施設管理者では 30%前後に最頻値がある。施設管理者がより多くの業務が代替可能と感じていることが明らかとなった (図)。

## 他職種に代替可能な医師業務の割合



## 5) ストレス調査

本調査は、厚生労働省の研究によって開発された他の職種との比較可能な標準的調査である。特に仕事のコントロール、仕事の量的負担および同僚や上司の支援の度合いを散布図で示し、比較することができる。この調査によると、仕事の量とコントロールや職場の支援について 100 を全国標準とする総合得点が算出可能で、点数が低ければストレスが少ない状況となり、他の産業や専門職種とベンチマークが可能となっている。

男性については、仕事の量的負担及びコントロール共に平均より悪く、合わせて大学病院が 125、公的病院が 119、私的病院が 114 と全国平均や専門職の平均よりも高い。一方、職場の支援に関しては、同僚・上司共に全国平均よりも良好で、特に上司の支援は良い。私的病院 88.0、大学病院 90、公

的病院 94 の順となっている。

女性については、男性と同様、仕事の量的負担やコントロールについて全国平均より悪く、大学病院で 114、私的病院で 111、公的病院 110 と全国平均より悪い値を示している。一方、職場支援については男性と同様、支援が良く、公的病院、私的病院共に 83.0、大学病院 86.0 と全国平均より大きな支援を得ているとの値が示された。これらを総合すると、男女共に仕事の量的負担とコントロールが職場の課題といえよう。

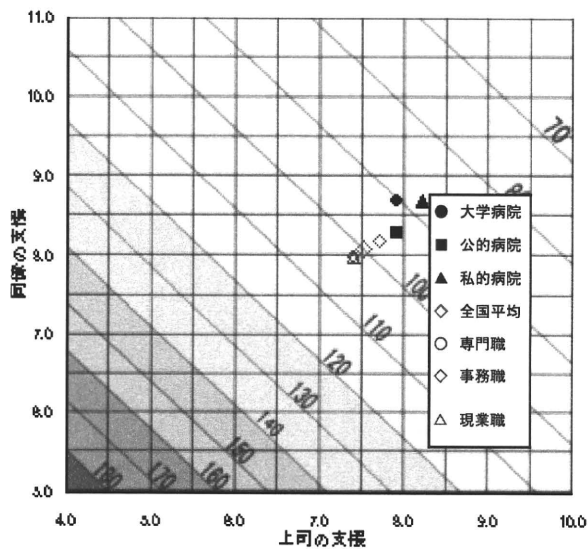
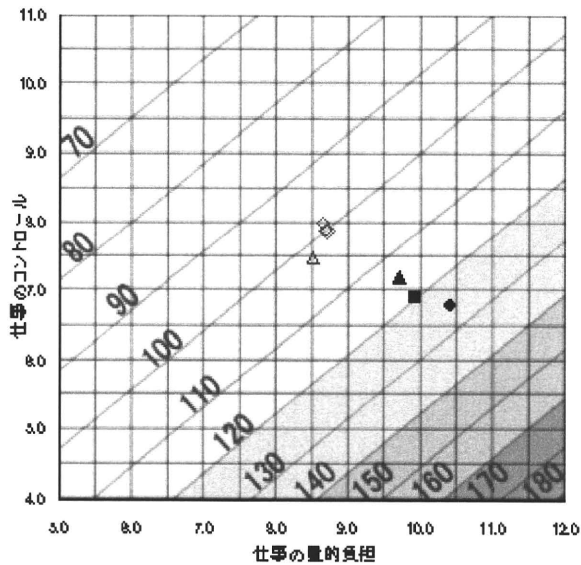
◆職業性ストレス簡易調査票を用いた分析

男性

設立主体	人数	量的負担 (点)	コントロール (点)	上司の支援 (点)	同僚の支援 (点)	量コントロール	職場の支援	総合
大学病院	693.0	10.4	6.8	7.9	8.7	125.0	90.0	112.0
公的病院	164.0	9.9	6.9	7.9	8.3	119.0	94.0	111.0
私的病院	247.0	9.7	7.2	8.2	8.7	114.0	88.0	100.0

簡易調査票用仕事のストレス判定図

(男性用)

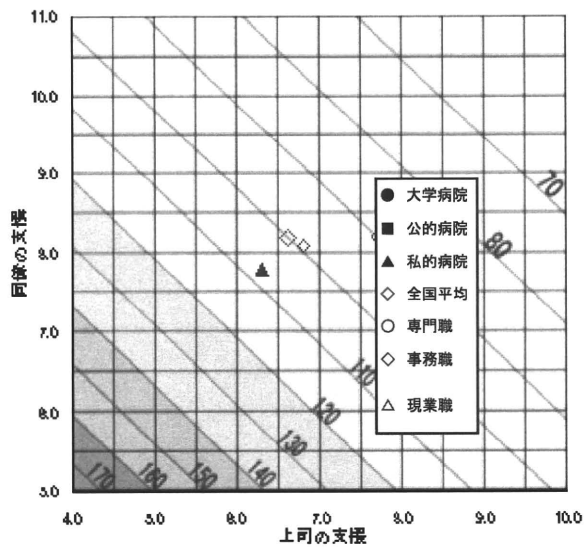
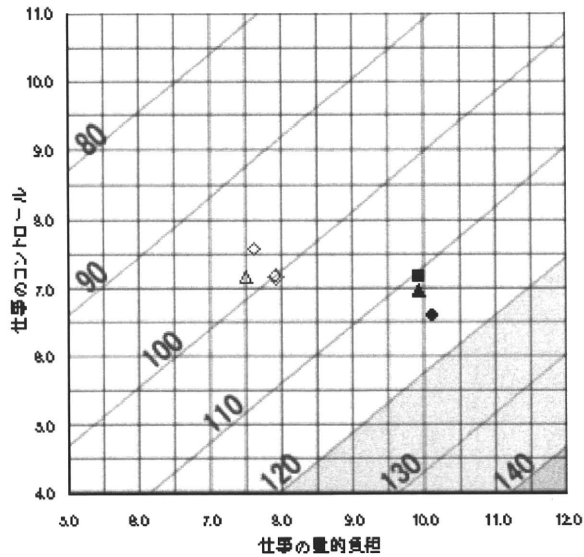


女性

設立主体	人数	量的負担 (点)	コントロール (点)	上司の支援 (点)	同僚の支援 (点)	量コントロール	職場の支援	総合
大学病院	249.0	10.1	6.6	7.8	8.5	114.0	86.0	98.0
公的病院	62.0	9.9	7.2	8.0	8.6	110.0	83.0	91.0
私的病院	84.0	9.9	7.0	8.1	8.5	111.0	83.0	92.0

簡易調査票用仕事のストレス判定図

(女性用)



## 5. 総括

今回の調査で、この数年間に医師の業務が実態として増加していることが明白となった。さらにこの増加の一部は、非診療行為、例えば事務系の仕事が大きく、それがさらに業務の負担感として反映していることが分かった。救急患者の増大や救急への対応の負担、新医師臨床研修制度導入に伴う大学病院での変化が、業務の負担を増大していること。そして患者の意識変化に伴う訴訟リスクの増大が負担感に拍車をかけ、多くの病院医師が離職を考えていることが判明した。対策として、以下の項目について早急な検討が必要と考えられる。

- ① 医師の業務の見直しと他職種への業務の代替。
- ② 医師の勤務体系の見直し、特に当直や救急体制についてシフト制度や当直後休暇等導入の必要性。
- ③ 病院医師の勤務体系の見直し、とりわけ大学病院における給与と業務の改善。
- ④ 女性医師への支援。
- ⑤ 臨床研修制度の改善。
- ⑥ 国民患者の病院医師の業務実態への理解と協力へのお願い。

病院長 殿

## 施設特性調査票（事前調査）

—勤務医の労働環境の問題点と改善策のための調査—  
（大学附属病院、広域センター病院、一般病院）

勤務医委員会アンケートにご協力をお願い致します

東京都医師会勤務医委員会とは、都内勤務医に関する事項についての東京都医師会会長による諮問を討議し答申する委員会です。この答申をもとに東京都医師会から日本医師会を通じて社会に「勤務医の状況」を伝え、問題点を改善することを目的としています。

新医師臨床研修制度の導入以降、急性期病院を中心に勤務医の負担が増加し、若手や中堅医師の離職などのため多くの臨床現場が混乱しています。

このような状況下、本委員会は東京都医師会長から「勤務医の労働環境の問題点と改善策」についての諮問を受けましたので、アンケート調査を企画しました。得られたアンケート調査の解析結果を東京都医師会から日本医師会を通じて社会にアピールし、勤務医の労働条件を改善したいと考えております。

アンケート内容には一部プライバシーに関わる点もあろうかと思えます。ご回答頂いた内容を集積して公表させていただきますが、回答者個々のデータを公表することはありませんので、先生方の生のご意見をお寄せ下さいますようお願いいたします。

私たち勤務医の勤務状況の改善のため、ぜひご協力お願い申し上げます。

東京都医師会勤務医委員会  
平成20年3月

A. 経年変化(2002年度～2006年度)についてお聞きします  
各項目につき記入して下さい

	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度
病床数					
医師数:常勤					
医師数:研修医					
看護師数					
平均入院患者数/日	/日	/日	/日	/日	/日
病床利用率(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
平均在院日数					
手術件数/年	/年	/年	/年	/年	/年
平均外来患者数/日	/日	/日	/日	/日	/日
救急患者取扱数/日	/日	/日	/日	/日	/日
退院患者数/年	/年	/年	/年	/年	/年
死亡退院数/年	/年	/年	/年	/年	/年

\* 常勤とは週4日以上勤務する者

B. 最近5年間(2003年度～2007年度)の間に以下の出来事がありましたか?  
どちらかに○をして下さい

	はい	いいえ
DPC導入	1	2
新規電子カルテ導入	1	2
2003年度以前から既に電子カルテ導入	1	2
7:1看護導入	1	2
医師定員増	1	2
新医師臨床研修制度導入	1	2
医療訴訟の増加	1	2
女性医師への支援策の導入	1	2
病棟クラークの導入	1	2
ワークシェアリング導入	1	2

「女性医師への支援策」「病棟クラーク導入」「ワークシェアリング導入」をされた場合は、具体的な内容をお書き下さい。その他、医師業務に影響した出来事があれば記入して下さい

--

**C. 業務量の変化についてお聞きします**

2002年頃(6年前)と最近(半年程度)を比較してどのように変化したと思われますか？

下記項目以外に業務量が増加した項目があれば、下に追加記入して下さい

		大変増加した	増加した	変わらない	減少した	大変減少した
1	在院患者数	1	2	3	4	5
2	新規入院患者数	1	2	3	4	5
3	救急患者数	1	2	3	4	5
4	外来患者数(救急除く)	1	2	3	4	5
5	手術件数	1	2	3	4	5
6	教育(卒後研修なども含む)	1	2	3	4	5
7	会議の回数	1	2	3	4	5
8	自己学習・研究	1	2	3	4	5
9	患者・家族への説明	1	2	3	4	5
10	患者からのクレーム件数	1	2	3	4	5
11	診療録の記載・入力	1	2	3	4	5
12	紹介状・報告書・診断書作成	1	2	3	4	5
13	保険書類作成	1	2	3	4	5
追加		1	2	3	4	5

**D. 医師の業務の負担感についてお聞きします**

以下の業務が医師にとって、「どの程度負担になっているか」、またそれらの業務に「改善の必要性があるか」病院長の視点からお教え下さい(それぞれ○を付けて下さい)

		大変負担	負担がある	負担ではない	改善が必要	改善の必要はない
1	当直	1	2	3	1	2
2	救急患者数	1	2	3	1	2
3	教育(卒後研修なども含む)	1	2	3	1	2
4	会議の回数	1	2	3	1	2
5	自己学習・研究	1	2	3	1	2
6	患者・家族への説明	1	2	3	1	2
7	患者からのクレーム対応	1	2	3	1	2
8	指示や予約(検査・処置等)	1	2	3	1	2
9	診療録の記載・入力	1	2	3	1	2
10	紹介状・報告書・診断書作成	1	2	3	1	2
11	保険書類作成	1	2	3	1	2
追加		1	2	3	1	2



**E. 医療安全対策(IC 含む)や訴訟リスクの増加は、医師の業務にどのような影響を与えていると思いますか？**

問 1. 医療安全対策による業務量はどの程度、変化していますか

- |             |             |            |
|-------------|-------------|------------|
| 1) 大変増加している | 2) 増加している   | 3) 増加していない |
| 4) 減少している   | 5) 大変減少している |            |

問 2. 訴訟リスクが気になりますか

- |               |               |             |
|---------------|---------------|-------------|
| 1) 大変気になる     | 2) 気になる       | 3) ある程度気になる |
| 4) ほとんど気にならない | 5) まったく気にならない |             |

**F. 院長先生のご意見をお伺いします**

問 1. 現在、医師が携わる業務のうち、およそ何%を医師以外の他職種に業務を委託できると思いますか

- |           |          |          |          |
|-----------|----------|----------|----------|
| 1) ほとんどない | 2) 10%前後 | 3) 20%前後 | 4) 30%前後 |
| 5) 40%前後  | 6) 50%以上 |          |          |

問 2. 外来患者は、逆紹介を積極的に行い、なるべく診療所で診てもらうべきだと思いますか

- |         |            |          |
|---------|------------|----------|
| 1) そう思う | 2) そうは思わない | 3) 分からない |
|---------|------------|----------|

問 3. 医師の離職の現状について(複数回答可)

- |                           |                 |
|---------------------------|-----------------|
| 1) 院内の医師でも仕事が増加して退職した人がいる |                 |
| 2) 辞めたいと言っている人がいる         | 3) あまり離職の話は聞かない |

問 4. 以前と比べた場合、職員が患者から感謝される度合いは変化していますか

- |                      |              |
|----------------------|--------------|
| 1) 以前よりも感謝されることが多い   | 2) 以前と変わらない  |
| 3) 以前と比べて感謝されることが少ない | 4) どちらとも言えない |

**G. 自由にお書き下さい**

問 1. 病院経営を取り囲む現状に関して、感想がございましたらご記入下さい

問 2. 医師業務の改善に関して取り組んだ実績がございましたらご記入下さい

問 3. 医療政策、健康保険制度、介護保険制度、臨床研修医制度などの現状について、ご意見をご記入下さい

ご多忙中、アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました

# 勤務環境改善のための実態調査



東京都医師会  
勤務医委員会

平成20年6月

## 勤務環境改善のための調査のお願い

勤務医の皆様

ここ数年病院の現場では、急性期病院を中心に負担が増大し、医療に混乱を生じています。

この度、東京都医師会勤務医委員会は、東京都医師会会長から「勤務医の労働環境の問題点と改善策」についての諮問を受けました。

本委員会は、都内の勤務医についての東京都医師会会長から諮問されたことを検討し答申する委員会です。この答申をもとに東京都医師会から日本医師会を通じて社会に「勤務医の状況」を伝え、問題点を改善することを目的としています。

勤務医の労働環境の改善にはまず実態の把握が必要です。そこで本アンケートを企画いたしました。得られたアンケート調査の解析結果を東京都医師会から日本医師会を通じて社会にアピールし、勤務医の労働条件を改善したいと考えております。アンケート内容には一部プライバシーにかかわる点もございますが、ご回答頂いた内容を集積して公表させていただきます。回答者個々のデータを公表することは一切ありませんので、先生方の生の忌憚のないご意見をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

東京都医師会勤務医委員会  
委員長 山崎純一

## アンケートの回答方法

1. 各質問事項のあとに続く選択肢の番号に○をつけて下さい。
2. 原則として1つだけの選択肢を選択して下さい。
3. このアンケートで使用する「主たる勤務施設」とは、回答者が1週間のうち日中の時間帯に、最も長い時間を勤務する施設と定義します。

先生ご自身についてお聞きします

問 1. 年齢  歳 問 2.  1. 男性  2. 女性

問 3. お子様的人数をお教え下さい(いない場合はいないに○をつけてください)

1)いない	<input type="text"/>	2)0歳～小学校	人	3)中学校以上在学	人	4)学校は卒業	人
-------	----------------------	----------	---	-----------	---	---------	---

問 4. 卒業年次 昭和・平成  年 臨床経験  年

問 5. 診療科をお教え下さい

1:内科系( <input type="text"/> 科)	2:外科系( <input type="text"/> 科)			
3:産婦人科(分娩取り扱い <input type="checkbox"/> 有・無)	4:小児科	5:精神科	6:麻酔科	7:病理
8:放射線科	9:救急医学科	10:その他( <input type="text"/> 科)		

問 6. 主として勤務している施設の勤務は常勤ですか  1. はい  2. いいえ

問 7. 主たる勤務施設でのあなたのお立場をお教え下さい(2つまで選択可)

- |                                    |                        |       |
|------------------------------------|------------------------|-------|
| 1) 研修医(卒後2年まで)                     | 2) 医員またはレジデント(卒後3年目以降) | 3) 助教 |
| 4) 医長、講師、医局長                       | 5) 部長、科長、副部長、教授、准教授    |       |
| 6) 理事長、院長、施設長、副理事長、副院長、副施設長        | 7) 大学院学生               |       |
| 8) その他の医局員( <input type="text"/> ) |                        |       |

問 8. 主たる勤務施設から得られる年収(各種手当を含む税込み額)をお教え下さい

- |            |              |             |           |            |
|------------|--------------|-------------|-----------|------------|
| 1) 100万円以下 | 2) ~300万円    | 3) ~600万円   | 4) ~900万円 | 5) ~1200万円 |
| 6) ~1500万円 | 7) ~1800万円未満 | 8) 1800万円以上 |           |            |

問 9. アルバイトや講演などによる年収(各種手当を含む税込み額)をお教え下さい

- |            |            |              |             |
|------------|------------|--------------|-------------|
| 1) 100万円以下 | 2) ~300万円  | 3) ~600万円    | 4) ~900万円   |
| 5) ~1200万円 | 6) ~1500万円 | 7) ~1800万円未満 | 8) 1800万円以上 |

問 10. 主たる勤務施設には何年間、勤務されていますか?  年

問 11. 通常の勤務時間外に on call 診療行為を行った場合の報酬についてお教え下さい

- |            |                                |           |
|------------|--------------------------------|-----------|
| 1) 常に報酬が出る | 2) 場合により報酬が出る                  | 3) 報酬は出ない |
| 4) 交通費のみ出る | 5) その他( <input type="text"/> ) |           |

問 12. 待機のみ(出勤しなかった場合)の報酬についてお教え下さい

- |                                |                   |
|--------------------------------|-------------------|
| 1) 待機のみの場合も報酬が出る               | 2) 待機のみの場合、報酬は出ない |
| 3) その他( <input type="text"/> ) |                   |

問 13. 主たる勤務施設から得られる給与に関してお教え下さい

- |                        |
|------------------------|
| 1) 勤務時間、勤務内容に相応しい給与である |
| 2) 勤務時間、勤務内容に比べて給与が低い  |
| 3) 勤務時間、勤務内容に比べて給与が高い  |

**B. 業務量の変化についてお聞きします(2003年以前に医師になられた方のみお答え下さい)**  
**2003年頃(5年前)と最近(半年程度)を比較してどのように変化したと思われますか？**

		大変増加した	増加した	変わらない	減少した	大変減少した
1	在院患者数	1	2	3	4	5
2	新規入院患者数	1	2	3	4	5
3	救急患者数	1	2	3	4	5
4	外来患者数(救急除く)	1	2	3	4	5
5	手術件数	1	2	3	4	5
6	教育(卒後研修なども含む)	1	2	3	4	5
7	会議の回数	1	2	3	4	5
8	自己学習・研究	1	2	3	4	5
9	患者・家族への説明	1	2	3	4	5
10	患者からのクレーム件数	1	2	3	4	5
11	診療録の記載・入力	1	2	3	4	5
12	紹介状・報告書・診断書作成	1	2	3	4	5
13	保険書類作成	1	2	3	4	5

**C. 業務の負担感についてお聞きします**

以下の業務が医師にとって、「どの程度負担になっているか」、またそれらの業務に「改善の必要性があるか」お教え下さい(それぞれ○を付けて下さい)

		大変負担	負担がある	負担ではない	改善が必要	改善の必要はない
1	当直	1	2	3	1	2
2	救急患者数	1	2	3	1	2
3	教育(卒後研修なども含む)	1	2	3	1	2
4	会議の回数	1	2	3	1	2
5	自己学習・研究	1	2	3	1	2
6	患者・家族への説明	1	2	3	1	2
7	患者からのクレーム対応	1	2	3	1	2
8	指示や予約(検査・処置等)	1	2	3	1	2
9	診療録の記載・入力	1	2	3	1	2
10	紹介状・報告書・診断書作成	1	2	3	1	2
11	保険書類作成	1	2	3	1	2

**D. 日常業務上の問題点などについてお尋ねします**

問 1. 主たる勤務施設での当直翌日の勤務において以下のような支障をきたした事がありましたか

	はい	いいえ	分からない
医療上のミスをしたことがある	1	2	3
医療上のミスを起こしそうになったことがある	1	2	3
手術、検査、入院・外来診療、教育、研究などに支障をきたした	1	2	3

問 2. 医療安全対策(IC 含む)や訴訟リスクの増加は、医師の業務にどのような影響を与えていると思いますか？

(A) 医療安全対策によって業務量はどの程度、変化していますか

1) 大変増加している	2) 増加している	3) 増加していない
4) 減少している	5) 大変減少している	

(B) 訴訟リスクが気になりますか

1) 大変気になる	2) 気になる	3) ある程度気になる
4) ほとんど気にならない	5) まったく気にならない	

◎上記(B)で1)もしくは2)と答えた方にお聞きします

訴訟リスクが気になる理由についてお答えください

	大きく影響する	ある程度影響する	影響しない
患者とのコンタクト時間の減少	1	2	3
医療事故などに関するマスコミ報道	1	2	3
医療訴訟の増加	1	2	3
業務の多忙化	1	2	3
患者意識の変化	1	2	3

**E. 先生のご意見をお伺いします**

問 1. 現在、あなたが携わる業務のうち、およそ何%を医師以外の他職種に業務を委託できると思いますか

1) ほとんどない	2) 10%前後	3) 20%前後	4) 30%前後
5) 40%前後	6) 50%以上		

問 2. 主たる勤務施設の女性医師へのサポートについて

1) 十分なサポート体制がある	2) ある程度のサポート体制がある	3) 全くない
4) 分からない	5) その他( )	

問 3. 以前と比べた場合、患者から感謝される度合いは変化していますか

1) 以前よりも感謝されることが多い	2) 以前と変わらない
3) 以前と比べて感謝されることが少ない	4) どちらとも言えない

問 4. 医師の離職の現状について(複数回答可)

1) 周りの医師でも仕事が増加して退職した人がいる	
2) 辞めたいと言っている人がいる	3) あまり離職の話は聞かない

## F. 職業性のストレスについてお伺いします

問 1. あなたの仕事についてうかがいます。最もあてはまるものに○を付けて下さい

		そうだ	まあ そうだ	やや ちがう	ちがう
1	非常にたくさんの仕事をしなければならない	1	2	3	4
2	時間内に仕事が処理しきれない	1	2	3	4
3	一生懸命働かなければならない	1	2	3	4
4	かなり注意を集中する必要がある	1	2	3	4
5	高度の知識や技術が必要なむずかしい仕事だ	1	2	3	4
6	勤務時間中は常に仕事のことを考えていなければならない	1	2	3	4
7	からだを大変よく使う仕事だ	1	2	3	4
8	自分のペースで仕事ができる	1	2	3	4
9	自分で仕事の順番・やり方を決めることができる	1	2	3	4
10	職場の仕事の方針に自分の意見を反映できる	1	2	3	4
11	自分の技能や知識を仕事で使うことが少ない	1	2	3	4
12	私の部署内で意見のくい違いがある	1	2	3	4
13	私の部署と他の部署とはうまが合わない	1	2	3	4
14	私の職場の雰囲気は友好的である	1	2	3	4
15	職場の作業環境(騒音、照明、温度など)はよくない	1	2	3	4
16	仕事の内容は自分にあっている	1	2	3	4
17	働きがいのある仕事だ	1	2	3	4

問 2. あなたの周りの方々について伺います。最もあてはまるものに○を付けて下さい  
次の人たちとどのくらい気軽に話ができますか？

		非常に	かなり	多少	全くない
1	上司	1	2	3	4
2	職場の同僚	1	2	3	4
3	配偶者、家族、友人等	1	2	3	4

問 3. あなたが困った時、次の人たちはどのくらい頼りになりますか？

		非常に	かなり	多少	全くない
1	上司	1	2	3	4
2	職場の同僚	1	2	3	4
3	配偶者、家族、友人等	1	2	3	4

問 4. あなたの個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか？

		非常に	かなり	多少	全くない
1	上司	1	2	3	4
2	職場の同僚	1	2	3	4
3	配偶者、家族、友人等	1	2	3	4

問 5. 満足度についてうかがいます。最もあてはまるものに○を付けて下さい

		満足	まあ 満足	やや 不満足	不満足
1	仕事	1	2	3	4
2	家庭生活	1	2	3	4



G. 勤務実態についてお尋ねします

問 1. 前週一週間の主たる勤務施設への到着時間と退出時間をお教え下さい。

(記入例)

午前 8 時 30 分 の場合

0 8 時 3 0 分

(記入例)

午後 8 時 30 分 の場合

2 0 時 3 0 分

問 2. 当直、On Call 体制についてお教え下さい。

該当する欄に○をご記入下さい。

「当直のはい」に○をつけた場合には当直時睡眠時間をご記入下さい

曜日	到着時間 (病院に到着した時刻)		退出時間 (病院を退出した時刻)	
	時	分	時	分
月		分		分
火		分		分
水		分		分
木		分		分
金		分		分
土		分		分
日		分		分

問 3. アルバイトの勤務状況についてお教え下さい。  
該当する曜日のみ時間数をご記入下さい。

アルバイト勤務時間	
曜日	日勤 時間
月	時間
火	時間
水	時間
木	時間
金	時間
土	時間
日	時間

当直	はい	睡眠時間	On Call	
			いいえ	はい
		時間		
		時間		
		時間		
		時間		
		時間		
		時間		
		時間		

問 4. 前週一週間の病院滞在時間のうち下記の業務が占める割合をお答え下さい  
(全体で 100% になるようにお答え下さい)

外来・在宅診療	入院診療	自己学習・医学研究	卒前・卒後教育	管理・運営会議	休憩・待機等
%	%	%	%	%	%

※診療は手術・処置にかかわる対応や症例カンファレンス等を含む

問 5. On call 中の出勤回数は何回でしたか？(該当者のみ)

回

問 6. 月曜日の午後での在院の受け持ち患者は何人ですか？

人

問 7. 前月一ヶ月の当直は何回ですか？

回

休日当直 回

回

この日の午後

はいの方のみ

H. 自由にお書き下さい(個人を特定できない範囲で、皆様のご意見をお伝え致します)

問 1.近年の医師の業務負担の増加要因と考えられる、以下の項目の原因・対応・解決策についてご意見をお聞かせ下さい。

救急

事務業務

医療安全対策(IC含む)・訴訟への不安

新臨床研修制度

その他

問 2.医療政策、健康保険制度、介護保険制度、臨床研修医制度、勤務医の労働条件などについての現状について、あるいは医師会のあり方やこのアンケート調査自体に関して、ご意見をご記入下さい

ご多忙中、アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました

## B. 推計

---

各種推計モデルのレビュー

長谷川敏彦

医師需給将来推計

長谷川敏彦・小塩篤史

個人の行動推計

清水佐知子

診療科別医師数と業務負担の将来予想

平尾智広

---

---

# 各種推計モデルのレビュー

---

---

## 1. Richard Cooper の医師数予測モデル

Dr. Richard Cooper (Health Policy Institute, Medical College of Wisconsin) の医師数予測モデルは、現存の COGME のモデルのような “Quantitative model” と比較して “Trend Model” と称される。Council on Graduate Medical Education (COGME) によって承認されていないものの、Qualitative model に代わりうるモデルとして注目されている。

Cooper モデル

**Supply × Sufficiency × Major Economic Trends × Sector Trend × Governors**

Supply = 現在の医師数 (診療科の混合、生産性などにかかわらず)

データ : American Medical Association の Master File  
Specialty society records (専門学会の記録)  
Re-certification data (専門免許の更新記録)

Sufficiency = 医師の利用パターン (雇用機会、追加的な仕事への意欲など)  
適切なサービス (待ち時間、不足しているニーズ、過剰なサービス)

データ : National Health Interview Survey(患者調査)

Major Economic Trends = GDP、可処分所得、個人消費

Sector trends = 8つのセクタートレンド

供給 係する)	1. Attrition (減少)	死亡率、退職年齢、実務から離れている期間
	2. Productivity (生産性)	勤務時間と労働量のアウトプット分析 (性別、年齢、生活スタイル、雇用身分などが関
	3. Substitution (代用)	専門外の医師や医師以外の臨床医療従事者の貢献
	4. Geographic distribution (地理的分布)	各州の医師分布、エスニックグループによる違い 経済的潜在力、医師密度と患者のサービス使用量
比較 需要	5. Technology (技術)	医薬品、医療機器、IT
	6. Demographics (人口)	総人口の伸び、年齢別・人種別人口変動